日本政策金融公庫

技術の窓　№2312　　H 30.11.22

イネ WCS、飼料用米を活用した「豊後・米仕上牛」の ブランド力強化と生産性向上

我が国の畜産経営は海外からの輸入穀物に頼っており、国際飼料価格の影響を受けやすく、近年の飼料価格の変動により安定した経営が難しい状況にあります。一方、近年は、イネ WCS や飼料用米の作付けが増加し、イネ WCS や飼料用米を給与する牛肉生産の取組みが行われています。そこで、大分県農林水産研究指導センター畜産研究部では、県内の交雑種肥育牛による「豊後・米仕上牛」のブランド力の強化と生産コストの低減を図るため、イネ WCS、飼料用米及びイネ WCS に麦焼酎粕を混合した飼料（混合飼料）を開発し、これを活用した高オレイン酸含有の牛肉生産の可能性を明らかにしましたので紹介します。

☆ 技術の概要

1．市販の肥育用配合飼料を給与する慣行区、配合飼料のオオムギ全量を飼料用米で代替する試験区１、育成期から肥育前期（3～13 ヶ月齢）の粗飼料を混合飼料で代替し市販の肥育用配合飼料を給与する試験区２を設定し、黒毛和種雌各 4 頭を供試しました。

2．育成期（生後 3 ヶ月齢）から肥育前期(生後 13 ヶ月齢)に混合飼料を給与することで出荷時体重が増加しました。

3．飼料用米を約１ｔ給与することで、枝肉の脂肪交雑（BMS ナンバー)、締まりが向上しました。

4．全期間の飼料用米（約１ｔ給与）給与に併せて、育成期（生後 3 ヶ月齢）から肥育前期（生後 13 ヶ月齢)に混合飼料を給与することでオレイン酸含量が上昇しました。

写真１　混合飼料

写真２　給与試験状況

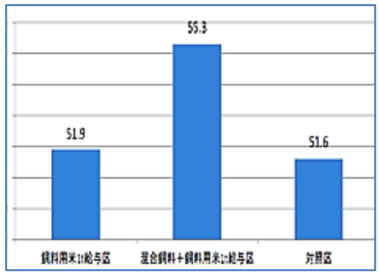

図１オレイン酸含量（%）

☆ 活用面での留意点

1．混合飼料の特性として、給与中は血中ビタミン A 及び E 濃度が高い値で推移するため、ビタミン A コントロールの観点から混合飼料の給与は 13～14 ヶ月齢までとし、その後は、粗飼料として稲わらを給与してください。

2．混合飼料を利用する場合、腐敗しやすいので 10 日程度で利用するようにしてください。

なお、詳しくは、大分県農林水産研究指導センター畜産研究部肉用牛繁殖・酪農チーム 倉原貴美（TEL027-282-1219）にお問い合わせください。

（日本政策金融公庫農林水産事業本部　テクニカルアドバイザー　加茂幹男）